



夏場の蚊対策



夏場になると蚊が発生します。蚊に刺されない対策をとるだけでなく、まず、身のまわりの発生源をへらすことにより、より快適な夏を迎えましょう！

写真提供：東京都

蚊による被害 刺すだけでなく、感染症を媒介することも

● 吸血して、かゆみを引き起こします

メスの蚊は、産卵するために吸血します。吸血の際に注入される唾液がかゆみの原因になります。

● デング熱、ジカウイルス感染症などの感染症を媒介します

ウイルスを保有している蚊が人を刺すことで感染します。

対策としては、蚊が発生させない、蚊に刺されないことが重要です。

蚊の対策の基本 水たまりをなくし、幼虫(ボウフラ)対策をすることが最も有効

蚊は水たまりがあれば、どこでも発生します

下の対策方法を参考に、不要な水たまりをなくしましょう。



自宅で発生源になりやすい場所 幼虫(ボウフラ)の主な生息場所と対策方法

空き缶・空きビン
ペットボトル

古タイヤ

ペットの
水飲み容器

散水用の
汲み置き水

植木鉢の受け皿



撤去する
カバーをかける

こまめに洗う

撤去する・逆さにする
週1回水を入れ替える

シートのかぼみ

木、石のかぼみ

つまった側溝

つまった雨どい

旗立て、支柱立て



たるみを無くす

充填剤で埋める

清掃してつまりを除く

フタをする

- 除去できない水たまりは、定期的に清掃、スポンジで水の吸いとりや、水交換を行いましょう。
- ため池などでは、幼虫(ボウフラ)を食べる金魚、メダカなどを飼うことも効果的です。



ボウフラ駆除用殺虫剤

どうしても水を容易に無くせない、清掃するなども難しいところには、定期的に殺虫剤を使用する方法があります。種類として、昆虫成長制御剤(IGR剤)や、有機リン系殺虫剤などのいわゆる「うじ殺し」などがあります。有機リン系殺虫剤は、鳥類への毒性があることから、使用場所などに注意してください。殺虫剤をむやみに散布することはやめましょう。



蚊の種類 都市部で見られる主な蚊

ヒトスジシマカ

- 主に日中、屋外で吸血するが、屋内に侵入することもある
- 活動範囲は狭い（半径 100～150m）
- 小さな水たまり（空き缶など）から発生



アカイエカ チカイエカ(アカイエカの亜種)

- 主に夜間、屋内で吸血する
- 活動範囲が広い（数 100m～数 km）
- 流れのない水たまりで発生



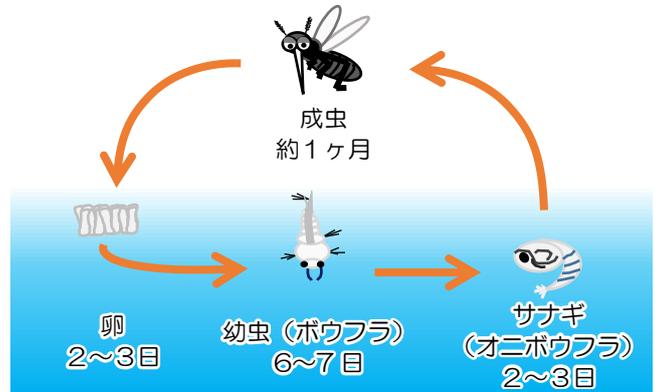
蚊の一生

成虫の寿命は約 1 ヶ月。

吸血するのはメスの蚊だけです。

成虫の間に 3～4 回、吸血と産卵を繰り返します。

卵・ボウフラ・サナギの間は水中で暮らします。



蚊が媒介する主な感染症

疾患名	媒介蚊の種類	潜伏期間	症状	備考
デング熱	ヒトスジシマカ、 ネッタイシマカ*など	2～14日	発熱、頭痛、発疹 筋肉痛、関節痛	2014年に、東京都内で感染した患者が 発生しました。
ジカウイルス 感染症	ヒトスジシマカ、 ネッタイシマカ*など	2～12日	発熱、関節痛、 発疹	妊娠中の女性が感染すると、胎児に感染し 小頭症などを引き起こすことがあります。
チクングニア熱	ヒトスジシマカ、 ネッタイシマカ*など	2～12日	急性の発熱と 関節痛、発疹	主な症状がデング熱と似ています。
マラリア	ハマダラカ属	7日以上	発熱、悪寒、 頭痛、筋肉痛	マラリア原虫が病原体です。 現在、日本国内で感染発生はありません。
ウエストナイル熱	アカイエカ、チカイエ カ、ヒトスジシマカなど	2～14日	発熱、頭痛、 筋肉痛	鳥と蚊の体内でウイルスが増殖し、ウイルス を保有する蚊が人を刺すことで感染します。

※ネッタイシマカは現在、日本国内で生息していないと考えられています。

蚊に刺されないために 蚊が家に入らないような対策と、外出時の対策を

雑草や植栽を定期的にかき取り、風通しを良くして、蚊の生息場所をへらしましょう

- 刺されないよう、外出時は服装に注意し、肌を露出せず、虫よけ剤（忌避剤）を使用しましょう。
- 蚊の侵入場所に網戸を設置しましょう。
- 室内では、必要に応じて蚊取り線香、電気蚊とりなどを使用しましょう。



虫よけ剤（忌避剤）

蚊の吸血行動を阻止する薬剤です。スプレー、ローション、クリームなどの製品があります。成分として、ディート（DEET）や、イカリジンなどが配合されているものがあります。1度塗れば1日中効果が続くとは限りませんので、製品の注意事項をよく読み、適切に使用しましょう。

【問合せ先】 町田市保健所 生活衛生課 環境衛生係
〒194-0021 東京都町田市中町 2-13-3 保健所中町庁舎
電話番号 042-722-7354（直通）